

外国語科学習指導案

単元名 「Let's think about our food.」

令和2年11月4日(水) 第5校時 3階多目的スペース
6年1組 指導者 橋本 真樹
ALT Michelle Fuentes
Noreen Gallardo

I 単元の構想

1 身に付けさせたい資質・能力および児童の実態

	身に付けさせたい資質・能力	児童の実態
知識・技能	<p>〈知識〉 I ate ～. I usually eat ～. ～is from …. ～ is in the…group. およびその関連語句について正しく理解することができる。</p> <p>〈技能〉 食材を通じた世界のつながりや食べ物の栄養素などについて関連する語句を用いながらお互いの考えや気持ちを伝え合うことができる。</p>	<p>単元の導入で用いるリスニング活動では、音声や映像をヒントに、聞き取れた英語をたくさんメモし、短い話の概要を捉えることは得意である。また、その単元内で用いた関連語句や基本的な表現は、意味をしっかりと理解しながら使おうとする。しかし、その関連語句を用いた活動の中で、簡単な既習表現を使えばいい場面でも、それを即興的に選択し、用いることのできる児童は限られている。</p>
思考力・判断力・表現力	<p>自分の食生活やオリジナルメニューについて知ってもらったり、相手の食生活やオリジナルメニューを知ったりするために、世界のつながりや栄養素について考えながら、自分の考えや気持ち、その理由などを簡単な語句を用いて伝え合うことができる。</p>	<p>ペア活動やグループ活動において、より相手に伝わりやすい表現にするためにはどんな工夫をすればよいか、どんな内容を足せばよいかを積極的に考え、適切なものを選択することができる。しかし、グループ内で活動する際には個人差が大きく、こちらが提示した中からしか選択できない児童もいる。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>自分の食生活やオリジナルメニューについて知ってもらったり、相手の食生活やオリジナルメニューを知ったりするために、世界のつながりや栄養素について考えながら、自分の考えや気持ち、その理由などを簡単な語句を用いて伝え合おうとしている。</p>	<p>話されている内容に興味をもって耳を傾け、言語活動に主体的に取り組んでいる児童が多い。書く活動でも、単語と単語の間隔に注意しながら例文を参考に書こうとする姿勢も見られる。世界と日本の文化に関する相違点にも着目しながら、自分の意見を持ち、それを積極的に伝えようとする児童がほとんどである。しかし、ペアやグループ内では自信をもって発表できても、全体への発表となると消極的な児童が見られる。</p>

2 目標

自分の食生活や自ら考えたオリジナルメニュー（ミクロネシア連邦と日本食の食材をミックスさせたもの）を知ってもらったり、相手の食生活やオリジナルメニューについて知ったりするために、食べ物や具材について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、互いの考えや気持ちを伝え合うことができる。

※ミクロネシア連邦は富岡市のオリンピックホスト国であり、本単元では、児童のオリジナルメニューをミクロネシア連邦の友達にビデオレターとして送ったり、富岡市給食センターの栄養士に給食のメニューとして提案したりする予定である。

3 評価規準

	知識・技能 (ア)	思考・判断・表現 (イ)	主体的に学習に取り組む態度 (ウ)
話すこと・やりとり	<p>〈知識〉 I ate ～. I usually eat ～. ～is from …. ～ is in the…group. およびその関連語句について理解している。</p> <p>〈技能〉 食べ物や具材などについて、I ate ～. I usually eat ～. ～is from …. ～ is in the…group. 等を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>自分の食生活やオリジナルメニューをよく知ってもらったり、相手の食生活やオリジナルメニューを知ったりするために、食べ物や具材などについて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。</p>	<p>自分の食生活やオリジナルメニューをよく知ってもらったり、相手の食生活やオリジナルメニューを知ったりするために、食べ物や具材などについて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。</p>

4 単元計画および指導方針

時	過程	学習活動	評価	指導方針
1	つかむ	<ul style="list-style-type: none"> Small Talk から、「マイクロネシア連邦と日本の食材を使ってオリジナルメニューを発信する」という単元のゴールを理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ◎マイクロネシア連邦の友達に日本の食材を伝えるために、マイクロネシア連邦と日本の食材をミックスさせたオリジナルメニューを作成して「N01 メニュー」を決めよう！ </div> <ul style="list-style-type: none"> Starting Out を聞いてわかったことを発表し、表現を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○食べたものやそれらの産地についてのやりとりの内容を理解しよう </div>		<ul style="list-style-type: none"> 単元導入の Small Talk では、ALT とのモデル会話に興味をもって聞けるよう、ワクワクするしかけを準備する。 ディベートのスマールトークを提示し、ディベートのイメージをもたせる。 実際にディベートのジャッジをさせ、スマールトークに参加させる。 モデル会話を基にペアで会話する際は、ピクチャーディクショナリーを使用させ、幅広く表現できるようにする。 単元のゴールを達成させるためにはどんなフレーズが必要かを児童自身に考えさせる。
2		<ul style="list-style-type: none"> ディベートに必要なフレーズや語句をより具体的に考え、発表し、共有する。 Let's listen 1、2 の音声聞き、答えのカードを選び、語順について気づいたことを発表する。 Let's try 2、3 のペア活動で、「～ is from…」や「～ is in the… group.」のやりとりをし、モデル文を読んだり、書いたりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○食べ物がどこの産地で、どの栄養素のグループに入るのかについて伝え合おう </div>		<ul style="list-style-type: none"> ディベートでは、どんなフレーズで何を表現したいのか、何の語句を使ったら効果的なのかを具体的に考えさせる。 Small Talk では、既習事項も織り交ぜながら、キーフレーズやピクチャーカードをわかりやすいように提示する。 語順が把握しやすいよう、色黒板を使用し、視覚的にわかりやすくする。 英文を書く際には、ピクチャーディクショナリーを使用させ、幅広く表現できるようにする。 WORD BANK に使いたい表現をためていく。
3	追究する	<ul style="list-style-type: none"> Enjoy Communication・Step 1 の映像を見て、オリジナルメニューの提示の仕方をつかむ。 Step 2 でヒントを復唱し、よりよく伝わるよう、「わたしのせりふ」に追加文を書く。 「わたしのせりふ」を参考にペアでオリジナルメニューを考え、食材やなぜそうしたか等の理由も提案する。 発表用のポスターを描く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○オリジナルメニューをペアで作成しよう </div>		<ul style="list-style-type: none"> Small Talk では、日本と ALT の祖国フィリピンの食材を例に、どんな風にオリジナルメニューを作成すればいいのかわかりやすく提示する。 「わたしのせりふ」がしっかり読めているか机間巡視する。 よりよく伝わるためにはどんな追加文が必要か児童自身に考えさせる。 ペアの考えを聞く姿勢を大切に、協力してよりよいオリジナルメニューが生まれるよう促す。 WORD BANK に使いたい表現をためていく。
4		<ul style="list-style-type: none"> 今までのフレーズや単語を参考に、ペアで作成したオリジナルメニューを英語にする。 使いたい表現、知りたい単語は、ピクチャーディクショナリーで調べたり、ALT に聞いたりして、クラスでワードバンクにためながら共有していく。 書いたフレーズをペアで協力して練習する。 実際に書いたフレーズがワークシートを見ずに言えるか、ペア同士でチェックをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○オリジナルメニューをペアで英語にして、ディベートで使えるよりよいフレーズを作成し練習しよう </div>		<ul style="list-style-type: none"> ピクチャーディクショナリーを活用するように促す。 音から単語が作れそうなものはヒントを与え、協力して書くよう促す。 集中して練習ができるよう、励ます。 大文字、小文字、単語と単語の感覚、アルファベットの感覚、形などを細かく指導しながら写せるようにする。 WORD BANK に使いたい表現をためていく。

5 本時	追	<ul style="list-style-type: none"> オリジナルメニューを発表できるよう、基本的な表現を使ってペアで練習する。 ペア同士でどちらのスペシャル食材がいいかディベートする。 ジャッジするペアはどちらのどのフレーズがよかったかを伝え、ジャッジする。 質問にペアで考える。 どちらのメニューが代表になるべきかをジャッジするペアが伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○ペア同士でオリジナルメニューディベートバトルをし、どちらがグループ代表メニューにふさわしいかを決めよう</p> </div>	ア	<ul style="list-style-type: none"> Small Talk では、食べ物に関してのディベートをし、どちらが優れているかを言わせたり、考えさせたりする。 質問の例を提示し、ディベートできるようにする。 聞く側もジャッジするポイントをしっかりおさえ、どちらかをきめる際には理由をきちんと伝えさせる。 ワークシートは、メモや絵を効果的に使用し、英文を読む作業ではなく、しっかり伝える活動を意識させる。 ディベートをスムーズにするために、机間巡視をしながら助言する。 中間評価として、よいディベートを発表させ、全体で確認してから再開させる。 WORD BANK に使いたい表現をためていく。
6	究 す る	<ul style="list-style-type: none"> 発表を聞いて、お互いに質問をする。 クラス全体でのプレゼンテーションポイントを再確認する。 発表を聞いてよかった点などをお互い意見交換できるようにする。 投票する際に、そのオリジナルメニューを選んだ理由を明確にし、伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○グループ毎にオリジナルメニューを発表し、質問をたくさんしよう。どのメニューを発信するのが一番ふさわしいか、クラス代表を決めよう</p> </div>	イ ウ	<ul style="list-style-type: none"> Small Talk では、メニューに関する発表に対し、いくつか質問し、質問の仕方を提示する。 見やすい発表、ポスターの提示の仕方を考えさせる。 発表を聞いて、即興的な質問ができるよう児童自身に考えさせ、準備させる。 自信をもって発表できるよう、十分な練習時間を確保する。 自分の意見をしっかりもてるように、そのメニューを選んだ理由を明確にし、相手に伝えさせる。 プレゼンテーションポイントを常に意識させる。
7	ま と め る	<ul style="list-style-type: none"> ビデオレターの準備をし、どんな表現が伝わりやすいかを考え、スクリプトをグループで話し合い、決める。 代表メニューの発表に関して修正するところがあるか検討する。 ビデオを撮る。 Unit 6 について全体を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○ミクロネシア連邦へオリジナルメニューに関するビデオレターを作ろう</p> </div>	イ ウ	<ul style="list-style-type: none"> ビデオレターでは、どんな表現が伝わりやすいかを考えさせ、台本を工夫させる。 発表台本の追加文や修正文はないかを全体で話し合わせる。 振り返りの際、ゴールに対して何を考え、どんなことができるようになったのか具体的に書かせ、発表させる。 児童の中によい表現があったら提示し、WORD BANK にためていく。 <p>※家庭科の授業において、富岡市給食センターの栄養士さんへ給食メニューを提案する予定である。</p>

※ 評価において、印がない箇所は各単位時間において目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。

II 本時の学習

<ねらい>

ミクロネシア連邦と日本との食材をミックスさせたオリジナルメニューについて、ディベートでやりとりすることを通して、自信をもってオリジナルメニューを伝えることができるようにする。

<展開>

学習活動	指導上の留意点	
	T1 (JET)	T2、3 (ALT)
1 Warm up (1分) <ul style="list-style-type: none"> ペアでフレーズ練習のEraser gameをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 明るく始められるようクラス全体の雰囲気を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 明るく始められるようクラス全体の雰囲気を作る。
2 あいさつ (1分) <ul style="list-style-type: none"> 気持ち、日付け、曜日、天気、時間の質問に答える。 		
3 栄養士からのビデオレター (3分) <ul style="list-style-type: none"> 栄養士の先生がどんな思いをもってミクロネシアの食材を使って給食を提供してくれたのか、また、これから提案されるオリジナルメニューに対して、どのくらい期待しているかを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養士からのビデオレーを見ることで、より必要感をもてるようにディベートへの意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 以前食べたミクロネシア料理の給食の感想を付け加えながら、ディベートへの意欲につながるよう促す。
4 Small Talk (4分) <ul style="list-style-type: none"> 1時間目と同じスモールトーク、「小野小ALT&担任 VS 北中ALT&英語専科でどちらのオリジナルメニューがおいしいか」というディベートを再度聞き、ジャッジに参加する。 教師からの質問に答える。 質問に簡単な単語、または英文で答える。 	<ul style="list-style-type: none"> モデルを提示することで、本時の活動のイメージをもたせる。 1時間目でスモールトークを聞いた時と、フレーズを学んでから聞く本時のスモールトークの理解度の違いを振り返らせ、変容を感じさせる。 わからない質問や主張はALTに質問させながら、WORD BANKにためていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味をもって会話が聞けるよう、ゆっくりはっきり話す。 伝わりやすいようにジェスチャーや簡単な語句で説明するようにする。 質問をなるべく多く投げかける。 質問に答える際、簡単な単語でもいいから答えるよう励ます。
5 めあての提示 (1分) <ul style="list-style-type: none"> 今日のめあてについて考え、全体で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の言葉を拾いながら、めあてを提示する。 	
<p><単元のめあて> ミクロネシア連邦の友達に日本の食材を伝えるために、ミクロネシア連邦と日本の食材をミックスさせた「オリジナルメニュー」を作成して、N01メニューを決めよう！</p> <p><本時のめあて> どちらがグループ代表メニューにふさわしいかを決めるために、「オリジナルメニュー」のディベートバトルを決行しよう。</p>		
6 ディベート表現練習 (8分) <ul style="list-style-type: none"> 既習表現の中からディベートで使う表現は何があるかを考える。 全体練習をする。 ペア練習をする。 ペアでわからない単語や話せない英文を確認し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習表現の中で、どの表現がディベートで使えるかを確認させる。 しっかり言えているかを確認しながら机間巡視する。 教え合っているペアのよいところを賞賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> 見やすいパワーポイントを提示する。 大きな声で練習できているか机間巡視する。 支援の必要な生徒に寄り添い励ます。

<p>7 ディベートバトル (15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ペア同士でディベートバトルをし、どちらのメニューが代表にふさわしいかを決める。 【中間評価】 模範となるディベートペアのよいところをジャッジペアが発表し、やりとりのポイント等を意識しながら、よいところを自分たちのディベートバトルに取り入れる。 よいところを参考に、ディベートバトルを再開する。 	<ul style="list-style-type: none"> しっかり活動できているかを確認し、机間巡視しながら指導する。 コミュニケーション活動を活発にできるよう雰囲気を大切にする。 大きな声で積極的に頑張ったことを必ず賞賛する。 言いたい表現があったら質問させ、WORD BANKにためていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語の指示でも理解できるようにわかりやすい英語を使つて的確に助言する。 コミュニケーションポイントを意識させる。 よい所を賞賛する。
<p>【評価規準】【知識・技能 (ア)】 食べ物や具材などについて、I ate ～. I usually eat ～. ～is from …. ～ is in the…group. 等を用いて、考えや気持ちなどを伝え合っている。(行動観察・ワークシート・振り返りシート)</p>		
<p>8 書く活動によるまとめ (7分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時で慣れ親しんだ英文をワークシートに書き写しながらまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> スペルの書き写しミスがないか、文字や単語の間隔は正しいか確認しながら机間指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> スペルの書き写しミスがないか、文字や単語の間隔は正しいか確認しながら机間指導する。
<p>9 振り返りと次時の予告 (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートにめあてに沿って言えたことや言いたかったことを振り返る。 友達の意見や聞き取ったこと、やり取りを通じて知ったことを書く。 振り返りについて発表する。 次回の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語面と内容面の両方の視点をもって振り返りができるように促す。 振り返りが具体的に書けている児童に発表させ、賞賛する。 具体的に書けていない児童に対しては、質問をし、具体的に書けるよう促す。 次時が楽しみになる予告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 頑張った児童に直接賞賛の言葉を伝える。 振り返りが書けているか机間巡視をする。

<板書計画>

Wednesday	November	4 th	<p>Lesson Goal</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ミクロネシア連邦の友達に日本の食材を伝えるために、オリジナルメニューを作成して、NO1メニューを決めよう! ●栄養士さんにオリジナルメニューを提案しよう!
<p>Class Menu</p> <ol style="list-style-type: none"> Greeting Small Talk Practice Debate battle Writing Evaluation 			<p>Today's Goal</p> <p>どちらがグループ代表メニューにふさわしいかを定めるために、オリジナルメニューの『ディベートバトル』を執行しよう!</p>
			<p>Micronesian food</p> <div style="display: grid; grid-template-columns: repeat(4, 1fr); gap: 5px;">    </div>
			<p>Food Group</p> 